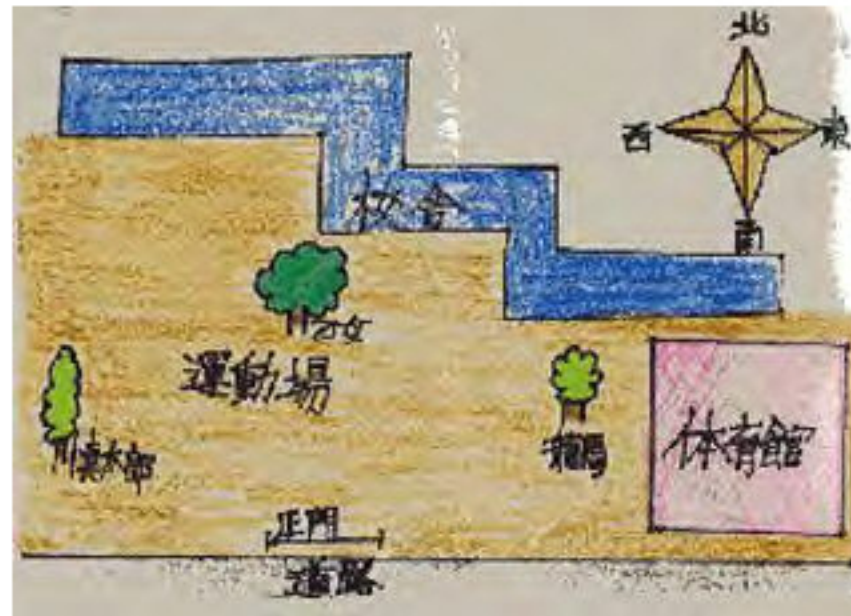


第四いちちょうの木



第四小には、3本のいちちょうの木があります。それぞれの木に、龍馬、乙女、慎太郎と名付けられています。

これらのいちちょうの木は、戦争前からあり、高知大空しゅうの時も焼けずにのこったそうです。第四小のみんなもこのいちちょうの木があることをうれしく思っています。



「ほくの木は立派でしょ。
慎太郎君は高いでしょ！
乙女姉さんは、変わってないな。」

龍馬(男)



校舎の3階くらいの高さです。

乙女(女)



一番大きな木です。
校舎6階くらいの高さです。

慎太郎(男)



背が高い木です。校舎4階くらいです。

いちちょうの木のエピソード

①



いちちょうの木で綱引き

大正十三年ごろはいちちょうの木に綱をかけて、両側からひっぱたそうです。
第四の子供は綱引きが強かったそうです。



「そういえば、つなひきの練習がんばってたな。」

②



いちちょうの木の周りで音楽

戦後まで、いちちょうの木は校庭のまん中にありました。木の下にオルガンを置いてみんなで歌を歌っていたそうです。

「きれいな音楽だったなあ」

③



いちちょうの木にかみなり

昭和40年前ごろ、いちちょうの木にかみなりが落ちたそうです。
かみなりは、枝に落ちただけで、いちちょうの木はなんとかぶじでした。

「あのとき、いたかったらうに…」

[TOPへ](#)